

事業報告

<研修名>

平成30年度 「協育」ネットワーク コーディネーター研修会

<開催日時>

平成30年9月15日（土） 10:00~12:00

<会場>

県立図書館 視聴覚ホール

<参加人数>

36名

<研修趣旨>

域内の学校や家庭、地域と連携し、子どものさまざまな活動や家庭教育支援に関する活動をコーディネートする役割を担う「協育」コーディネーターが、職務や役割について理解を深め、域内の「協育」ネットワークの取組の充実を目指す。

<研修内容>

【研修1】講演

演題：「学校側から『協育』コーディネーターへ期待すること」

講師：国東市立富来小学校 校長 橋本 邦彦 氏

学校・家庭・地域の三者が学校の重点目標を共有し、その目標に向けて協働する「目標協働達成」及び「コミュニティ・スクール」の取組について、ご自身の経験を踏まえてお話していただきました。また、その成果を検証・改善し、子どもたちのよりよい成長に資するため、学校と地域の連携、そのキーパーソンである「協育」コーディネーターの役割についてお話していただきました。

【研修2】パネルディスカッション

議題：「学校と地域の協働を進めるには」

パネリスト：竹田市立直入小学校区放課後子ども教室 コーディネーター 峯野 希美 氏
別府市教育委員会社会教育課 社会教育主事 縄田 早苗 氏
国東市立富来小学校 校長 橋本 邦彦 氏
大分県教育庁社会教育課生涯学習推進班 課長補佐（総括） 後藤 秀徳
コーディネーター：県立図書館 学校・地域支援課長 森山 貴仁

現役の「協育」コーディネーター、市町村行政職員、学校関係者、県の行政職員というそれぞれの立場から、地域学校協働活動の現状と課題、より一層の協働を進めるための方策等について討議しました。

<当日の様子(写真)>

【研修1】講演



【研修2】パネルディスカッション



<参加者感想>

- 学校と地域をつなぐ「協育」コーディネーターの役割を再認識できた。意欲のある活動の様子を聞くことができて良かった。
- わかりやすかった。「協育」コーディネーターの役割の重大さを認識した。校長先生の実践が素晴らしい。校長先生が日頃から地域に密着して生活しておられるからだろうと思った。
- 各立場の方の意見を聞いて、参考になった。「生きがい」、CS、新しい方向が理解できてよかった。
- 地域の支援者の 後継者が見つけない現状は同じ。支援者の発掘が早急な課題。全員が参画意識を高めることが必要。
- 地域と学校双方が、お互いの活動や取組を知り、情報共有していくことが、地域の「協育」力の活性化につながることを改めて学ぶことができた。